

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 はくちょう 組	5 月 26 日 (月)	河本 朱樹

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス ～天気～ くもと雨についてしろう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日頃から子どもたちは空を見上げて雲の形や天気の変化に興味を示しており、「今日は晴れるの?」「雲はどうやってできるの?」などの質問が多く見られる。また、雨が降ったり風が強く吹いたりすることにも関心を持ち、天気が変わる理由について知りたがる様子がある。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
11:00～11:30	・4月④の活動でどんな天気の日公園で探索したか振り返る。 ・「今日のお散歩に行ったときはどんな天気だった?」「公園に行って遊ぶことが出来る日はどんな天気?出来ない日はどんな天気?」「どんな天気があるのかな?」等と問いかけをして振り返りや発言がしやすいよう工夫する。 ・くもりと雨について考えていく。雲はどのように表れるのか?どのように出来るのかを子どもたちに聞く。 ・意見はホワイトボードにまとめる。 ・「雲はどこからくるのかな?」「雲は何でできているのかな?」「雲はどんな形がある?どんな色がある?」「雨はどこからくるのかな?」「雨は何でできているのかな?」と問いかけ、イメージしやすいように声をかける。 ・写真や図を使ってさまざまな雲の形を観察。 ・高さによって雲の形が異なること、雲が水蒸気からできていることを図や写真を見ながら伝える。 ・保育者は、子どもたちの意見を引き出したり、形状と重さについて気づけるような問いかけを工夫する。 ・電気ポットとビニール袋を使った実験をすることを伝える。 ・開始する前に電気ポットから出る湯気はとても熱いことを伝え、観察する際の約束を伝える。 ・電気ポットとビニール袋を使った実験を行い、雲と雨の発生の仕組みを観察する。 ・雲・雨・雪の発生原理の図をみんなで再度見て、雲は水蒸気(湯気)が上に上がり、ある程度集まって、粒が大きくなり、空から落ちて雨になるということを確認する。 ・雲・雨・雪の発生原理の図をみんなで再度見て、雲は水蒸気(湯気)が上に上がり、ある程度集まって、粒が大きくなり、空から落ちて雨になるということを確認する。	【環境設定】 ・ 室内で写真や図を見ながら話し合えるスペースを確保する。 ・ 室内で実験が安全に行えるスペースを確保する。 【準備物】 ・ 電気ポット ・ 透明のビニール袋 ・ 雲の写真集 ・ 雲・雨・雪の発生原理の図 ・ ホワイトボード ・ ホワイトボードマーカー ・ 写真や図を掲示するためのマグネットなど ■参考資料 ・雲の写真集 (巻雲、巻層雲、巻積雲、乱層雲、高層雲、高積雲、積乱雲、積雲、層雲、層積雲、穴あき雲、レンズ雲、スーパーセル等) ・ 雲・雨・雪の発生原理の図 【事前準備】 ・ 電気ポットとビニール袋を使った実験を予めて検証しておく。 【実験】 ①電気ポットの中にお湯を沸かす。 ②お湯が湧いたら、電気ポットの蓋を開け、湯気を放出する。 ③湯気が上がっている上に透明のビニール袋を広げ、湯気を受け止める。 ③ビニール袋の口を閉じ、中の湯気を観察する。 ④時間が経ち、湯気が水の粒となったら、ビニール袋の口を開け水滴を落とす。
10:20～10:30	・「今日、気づいたことや、感じたこと、思ったことは何かな?」と問いかけ、自分なりの気づきや感想を言葉にする機会をつくる。	

--	--	--

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・本活動では、雲の仕組みや特徴、雨ができる仕組みについて、写真や図を使った観察を通じて学んだ。 ・導入では、天気についての話を広げ、子どもたちの知識や疑問を引き出した。その後、さまざまな雲の写真を見ながら違いを考え、雲のでき方について考えた。 ・また、電気ポットとビニール袋を使った実験を行い、雲と雨の発生についてより実感をもって学ぶことができた。	【子どもの姿・声】 ・「この雲、ふわふわしてるね!」、「こっちは細長いね!」、「雲って空のどこからくるの?」など、子どもたち同士で意見を交換しながら、「こういう雲は雨が降るときにできるのかな?」と話し合う様子が見られた。 ・実験では、「袋が白くなった!」「湯気が集まると水になるんだね!」と驚きの声が上がった。 【保育者との関わり】 ・「どうしてこの雲は高いところにあるのかな?」と問いかけ、子どもたちが自分で考える機会を作った。 ・結論を急がず、考えるプロセスを大切にした。 ・実験時は安全に配慮しながら行った。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・実験が上手くいくかという結果に注目してしまいがちだが、本テーマである雲と雨に結び付けた観察ができるような問いを行ったことで、それぞれのチームでの実験結果の差がより天気への不思議さを広げるきっかけとなった。 ・予想を立てることが難しい子もいたが、子どもたち同士で意見を共有することで考えを深められた。 ・雲の写真を見比べることで、子どもたちが違いに気づき、興味をもちやすかった。 ・結果を見てすぐに納得するのではなく、「どうしてだろう?」と考え続ける時間をもっと作ると良いと感じた。 ・グループでディスカッションし、発表する時間を設けた方が良かった。	雲と天気の関連性についても学ぶことができたのではないかと感じた。知識として身についたものが普段の生活の中で生かされていくと良いなと思った。実験では「どんなふうになるのだろう?」とわくわくさせる導入、演出なども考え進めていくことで集中して取り組める環境になっていくと思うので引き続きその点を意識して進めていっても良かったです。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 はくちょう 組	7 月 16 日 (水)	河本 朱樹

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ～水～ 水ってなに？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
水遊びが始まり、水の感触、色、水に浮くもの、浮かない物など、水への興味関心が高まっている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:40～10:50	・水とは何かを問いかける。	【環境設定】 ・安全に探究できるよう環境を設定する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。 【活動使用教材】 ・水 ・電気ポット ・氷 ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・水を扱う活動になるため、水で濡れる点に注意し、転倒などの事故を防ぐよう環境を設定しておく。 ・事前に氷を作っておく。 ・ポットにお湯を貯め、水蒸気の実験ができるようにしておく。
10:50～11:15	・子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。 ・水をたらい、洗面器、ペットボトルに入れ観察する。その入れ物に入ると中の水はどんな形になるのか問いかける。 ペットボトルに水を入れ、それを流して水の動きを探究する。 どのようにペットボトルを動かすと水が少しずつ出るのか、量を多く、速くするにはどうしたら良いのかなど問いかける。 氷を水に入れ、浮くか沈むかの実験をする。	
16:00～16:10	・探検での発見や感想を発表する。発表の内容をホワイトボードにまとめていく。 ・水の性質について確認する。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・導入では、水はどのようなものか問いかけ、グループでディスカッションし、どんなものを発表した。さらに、水について、色、形、においや流れ、などについて問いかけ、子どもたち同士で考えた。 ・振り返りでは、気づきや調べた内容を共有し合った。	【子どもの姿・声】 ・「水色と水の色は同じかな？」という問いかけに「ちがーう」との声が上がり、「じゃあ、何で水色っていうのかな？」とさらに問いかけると、「海とか水色だから」や「水が集まると水色になるんじゃない？」と言う声があがった。 ・「先生、こうすると速いよ」「こうするとちよろちよろしかでなくなるんだよ」など、ペットボトルの角度によって水の勢い、速さなどが変わる事を改めて口にする児もいた。 ・氷をたらいに入れると「先生、氷って浮くんだね」「だんだんしずんじゃうよー」と氷が浮くこと、小さくなると沈んでいくことにも気が付いていた。 【保育者との関わり】 ・子どもが見つけたことに対して、「ほんとうだね！○○ちゃん、良い目してるね。」 ・一人ひとりの気づきをみんなで共有できるように、「○○くんはどう思った？」「○○ちゃんはどうだった？」と対話をつなげた。 ・

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・子どもたちは、普段当たり前に触れている水にも強い関心を持っていることに改めて気づいた。以前行った水蒸気の実験や結露の実験を覚えていてそれを話題にする子も居て、水に対しての知識が蓄積されていることを実感した。 ・子どもによって着目するポイントが異なり、一人ひとりの視点や感じ方に違いがあることがよくわかった。そこに丁寧に寄り添うことで、気づきや学びが深まる手応えがあった。	正解の答えを最短で行くことがゴールではなくその過程で1人1人がどのように考えたり他の人の意見や考えに触れていくかが大切。大人になって当たり前に感じていることでも子どもたちにとっては新鮮な体験だったりするのでそのような身近なものに対する関わりはとても良い体験だなと感じた。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 はくちょう 組	10 月 21 日 (水)	河本 朱樹

● 実施計画

活動テーマ		
アート～色のふしぎ～ 5つの色から虹をつくろう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
これまでの活動で親しんだ色を使い、『虹にはどんな色があるかな?』とイメージをふくらませている。友だちと色をつなげたり並べたりしながら、色を組み合わせでひとつの世界をつくりあげる喜びを感じている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:15	・混色のやり方を振り返り、虹の色について話し合う。 ・「虹の色って何色?」「どうやって作る?」と問いかけ、興味を引き出す。 ・虹を描く7色を準備する。 ・「どの色をどう作る?」と考えながら色を作る。	【環境設定】 ・子どもたちが自由に絵の具を使いながら、安心して色作りに挑戦できるスペースを確保する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 【準備物】 ・虹の見本の絵 ・絵の具で描いた虹の絵 ・絵の具(赤、青、黄色、白、黒) ・パレット ・筆 ・画用紙 【事前準備】 ・わかりやすいように事前に見本の絵を描くか保育中に一緒に描けるようにしておく。 ・市販の絵の具で描いたバージョンも比較の為に描いておく。
10:15～10:25	・作った色を使って、見本を見ながら順番に色を塗ってみる。 ・「順番を間違えないように気をつけよう」と声をかける。 ・自分で作った色で描いた虹と、市販の絵の具で描いた虹を比較する。 ・みんなで描いた虹を見比べる。	
10:25～10:45	- 色味がすこしずつ違う事に目を向け、同じ赤、青、黄色でも微妙な色の違いがあることに目を向ける。 - 一人一人の作品を見て、どこが素敵かなど、発表する。 ・「同じ虹でも、それぞれ少しずつ違うね」と話し、オリジナルの色の面白さを感じられるようにする。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
子どもたちは、これまで学んだり、経験したりした混色の知識を活かしながら、自分で作った色を使って虹を描いた。「この色とこの色を混ぜたら何色になるかな？」と試しながら、色作りに挑戦し、楽しみながら活動を進めていた。混色する絵具の比率や水の量で色味が変わることに気が付いていた。	【子どもの姿・声】 ・「黄緑と緑が同じ感じになっちゃった。」「このオレンジ、ちょっと黄色が多かったかな?」「〇〇くんのは色が薄くてきれい」などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。 【保育者との関わり】 ・「どうしたら思った色になるかな?」と問いかけ、子どもたちが自分で考える時間を大切にした。また、虹はどれも色の並びは一緒であることも伝え、色の順番についてクイズのようになしてみんなで確認した。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・子どもたちは、自分で色を作ることに大きな関心をもち、試行錯誤しながら取り組んでいた。 ・同じ色を作ることの難しさや、思った色にならないことも楽しみながら受け入れる姿が見られた。 ・今回の発表は、作者ではなく、その作品に対して自分がどう思うかを発表した。ほかの子の作品をしっかり見て「この色がすてき」「この雲の色が上と下だんだんと色が変わっているところが良いと思いました」など、他児の作品の良いところを探して発表する事で、一人一人がポジティブな方向に意識が向いたり、褒めてもらえた事で自己肯定感が育まれたりと相乗効果があるように感じた。	同じ色であっても1人1人捉え方、感じ方は変わることも感じられたのではないかと思った。混ぜる色の配合によっても明るさ、印象が変わるということも実際にやってみて感じられたのではないか。虹の絵を描く時に本物に近いかという再現性を評価に重きを置くことなく関心や興味から自分で調べたり、知ろうとする行動を見ていくようにする。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 はくちょう 組	3 月 26 日 (木)	河本 朱樹

● 実施計画

活動テーマ		
おかね ～おかねで何ができるかな～ お金をわけあうって？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
自分にもたらす満足感や働くことが周りの満足感につながっていることなどについて、興味関心をもっている。		
		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
14:00～14:10	・前回の活動を振り返り、子どもたちが得たお金の金額を振り返る。	【環境設定】 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にする。 【活動使用教材】 ・模擬通貨(前回の収益) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・収益を全員が見える場所に置き、「みんなで得た大切なお金」として提示できるように準備する。 ・「みんなのため」という概念を子どもたちが具体的にイメージできるよう、実際の公共施設やサービスの例を用意しておく。(理解を深めるために絵や絵本、写真などを活用)
14:10～14:30	・自分のためにお金を使うことも良いが、いろいろな人たちがもっと楽しく(嬉しく)なる使い方も考えてみることを伝える。 ・「分け合う」行為を通じて、お金が持つ社会的な力について探究することを伝える。 ・「みんなのため」のお金の使い道を考えてみる。 ・様々な公共施設やサービスの写真や絵本を提示し、目的を説明する。 ・みんなのお金を使ってみたいものを考えてみる。なぜそこに使ってみたいのか理由なども聞いていく。	
14:30～14:40	・一人ではできないことも、みんなでお金を出し合えば実現できるという「社会の助け合い」の仕組みに関心をもてるように話を進める。 ・「困っている人」を助けられる喜びや、社会の一員としての役割について理解する。 ・改めて、今日の活動で考えてきたことを全員で振り返る。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・導入では、お金で「誰かを助ける」ことができるか問いかけ、募金や寄付といった具体的な方法があることを伝えた。 ・展開では、様々なサービスや公共施設の写真カードや絵本を提示し、それぞれの目的を説明した。子どもたちは、誰を助けたいか、なぜ助けたいかを考え、話し合った。 ・まとめでは、みんなのために分け合うお金についての気持ちや、どこに分け合うかの理由を発表した。「誰かを助けられたことが嬉しい」「お金を使うと、みんなが笑顔になれる」といった、利他的な感情を共有した。	【子どもの姿・声】 ・「おもちゃがなくて困っている友達を助けたい」など、具体的な共感に基づく発言が見られた。 ・「自分の大切なお金だけど、助けるために使えてよかった」と、満足感や社会貢献の喜びを言葉にしていた。 ・友達の選んだ理由を聞いて、「〇〇ちゃんは動物が好きなんだね。私も助けたいな」と、多様な価値観と共感の広がりが見られた。 【保育者との関わり】 ・お金を分け合う行為が、単にお金をあげることではなく、「みんなが便利に生活するため」や「困っている人に希望を届けること」に繋がるという意義を、丁寧に伝えた。 ・何にお金を分け合う選択をするのかは個人の価値観によることを尊重し、子どもたちの思いを最大限に承認した。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・お金の探究における社会性・倫理性を育む集大成となった。子どもたちは、自分のお金を使うことで、社会の仕組みや他者の困難に目を向け、社会の一員としての役割を果たす喜びを体験した。 ・「分け合う」という行為が、最終的に「自分の満足」にも繋がるとい、利他性と自己満足の両立を学ぶ貴重な機会となった。	公共性のあるお金の使い道があることもわかり、そして自分だけで使うお金だけではなくみんなのために使うお金もあるんだという発見にも繋がったように感じた。